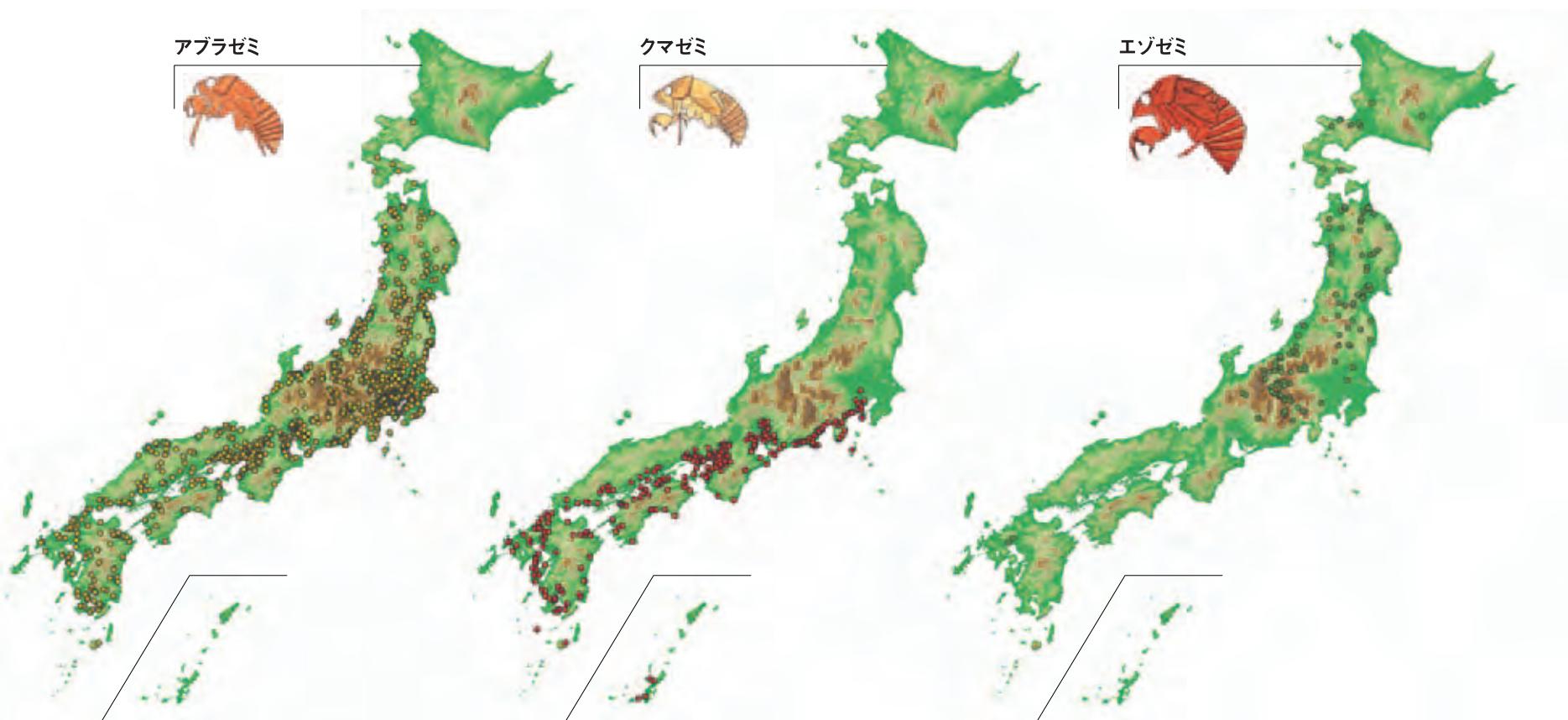




最新のセミの全国分布を見てみよう！

参加者の皆さんご協力によって、最新のセミの全国分布図を描くことができました。そのうち、アブラゼミ、クマゼミ、エゾゼミの全国分布を見てみましょう。もっともぬけがらの収集数が多かったアブラゼミは、参加者の地域的な偏りをものとせず、全国的に分布しているようすがわかります。数が多いことに加え、

平地の集めやすい場所に分布していることも影響しているのでしょうか。クマゼミは西日本に、エゾゼミは北日本に多い傾向がみられます。1995年時調査と比べると、集まったぬけがらの総数は半分強であったものの、分布の傾向に大きな変化はみられないことがわかりました。

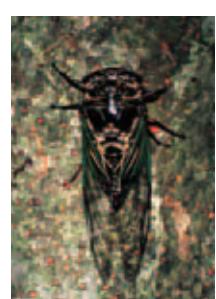


10年前よりぬけがらが多く集まつた種類も

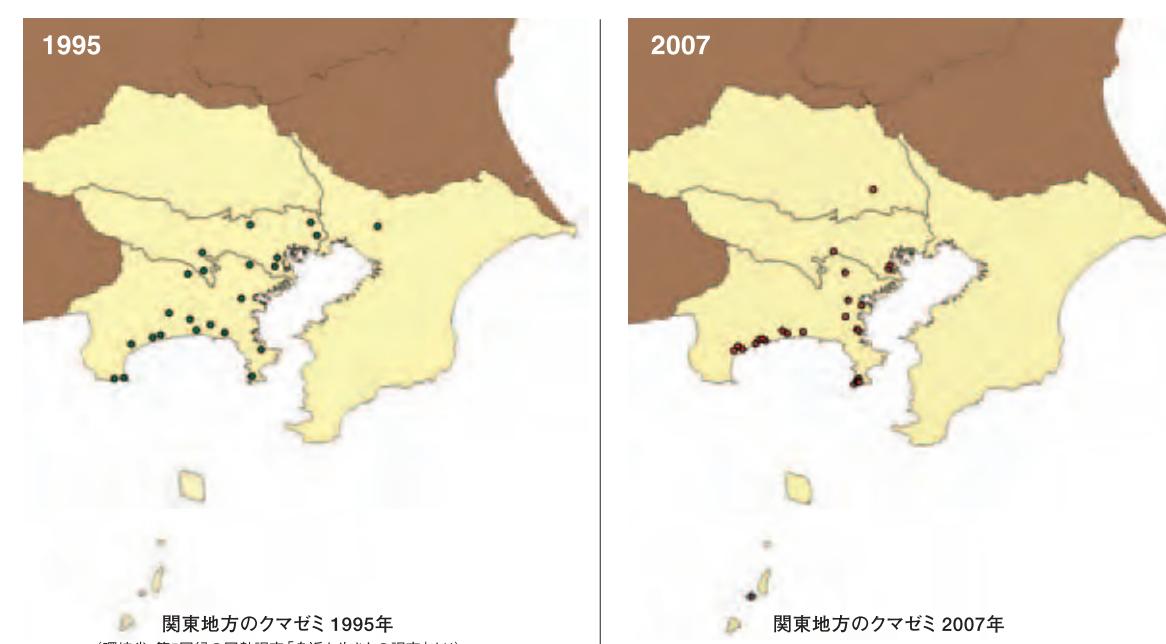
一方、キュウシュウエゾゼミ、クロイワツクツク、イワサキゼミなど、種類によっては1995年時調査よりも寄せられたぬけがら数が多かったものもありました。参加者の熱心な観察のおかげです。新たな発見地点が得られ、より詳しい分布がみえてきたことは、今回の成果のひとつといえるでしょう。また、ぬけがらの一部は標本として保存し、今後の研究に生かすなど、日本のセミの現状を知る上で貴重な記録を残すことができました。

クマゼミの分布最前線は？

全国分布をみる限り大きな変化はないようですが、分布の北限にあたる関東地方では、クマゼミの鳴き声を聞くことが増えてきているようです。ぬけがらは、この10年ほどで横浜市、品川区、江東区などで見つかっていますが、今回新たに、さいたま市岩槻区から観察記録が届きました。公園などの植栽と一緒に幼虫や卵が運ばれたのか、地球温暖化やヒートアイランド現象の影響によるものなのか、今後も注目したいことがらです。



クマゼミの成虫



関東地方のクマゼミ 1995年
(環境省・第5回総合国勢調査「身近な生きもの調査」より)

COLUMN

セミのぬけがらが、 その土地の環境変化のパロメータに

セミは幼虫時代の数年を土中で過ごし、遠くに行くことができないので、その土地の環境変化を知るパロメータとして注目されています。地域ごとに、見られる種類の多少や構成比率がちがうため、それぞれ調べなくてはいけませんが、こうした研究は、関東・近畿地方以外ではあまり進んでいないのが現状です。今回の調査では、集めたぬけがらはセミの種類ごとに1つずつ送ってくださるようお願いしましたが、なかには、家の庭で集めたぬけがらを全部送られてきた方もありました。そこで、せっかくなのでそれらのぬけがらを使って、地域ごとの種類の多少と構成比率の傾向を探ってみました。

すると、東本州と西本州～九州で、状況が大きく異なることがわかりました。東本州では、アブラゼミの比率が高く、ミンミンゼミが出現し、北にいくにつれてエゾゼミの出現頻度が高まるなどの傾向がみされました。一方、西本州～九州では、クマゼミが多くを占め、それに次ぐアブラゼミの2種で100%に近い出現率となり、単純な種類構成になる傾向であることがわかりました。今後、庭木の種類や茂り方、庭面積の多少による変化などについても詳しく調べていくことによって、環境変化のパロメータとしての利用が高まるものと期待できます。

●家の庭で集められたぬけがらの種構成比率

